

令和 2 年 3 月 30 日

文化庁 共同研究事業事務局 御中

機 関 名 立命館大学

代表者名 赤間 亮

文化庁・大学等共同研究事業成果報告書

文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業について、下記のとおり報告します。

	☒ 公募型共同研究	☐ 提案型共同研究
1 名 称	デジタル・アーカイブを応用した新たな文化芸術活動の展開手法に関する研究	
2 期 間	平成 元年 6 月 17 日 から 令和 2 年 3 月 31 日まで	
3 研究成果	本研究では、立命館大学アート・リサーチセンターがWEB上で一般ユーザーに提供するデジタル・アーカイブの内、古典籍データベースや浮世絵データベースを使い、「画期的な補助機能」を追加することで、文化・芸術的な何らかの活動が活発に行われるような手法を開発することを目的とした。 「補助機能」は、AI(ディープラーニング)によるくずし字解読エンジンを使い、研究代表者らが開発した「くずし字翻刻支援・教育システム」である。研究期間中、本学の正規授業の中で当該システムを使った実証的な授業を展開し、フィードバックを繰返しながら、教育システムとして実用的な段階に到達することに成功した。8月には、ケンブリッジ大学の日本古典籍サマースクールにおいて、2コマの授業を行い、日本人以外の翻刻挑戦者らにとっても、有効なシステムであることを確認できた。また、11月9日に開かれた日本近世文学会において、「AIくずし字解読支援機能付翻刻システムによるくずし字指導の実践と活用提案」と題して、社会的な意義付け、指導システムへの興味など、研究者・学識者からの助言を得た。 上述の準備活動を踏まえて、12月22日、1月26日の二回にわたり、舞鶴市の協力のもと、舞鶴市共同資料館（西公民館会議室）において市民向け「くずし字ワークショップ」を実施した。2回とも、舞鶴市のみならず近隣の高浜町からの参加者もあり、また、3名の高校生の参加も得た。作品は、舞鶴市が所蔵する指定文化財糸井文庫の中から丹後地方の伝説を対象にし、くずし字ワークショップ用にデザインしたバーチャルインスティテュート「日本古典籍デジタル研究所」の「古典籍翻刻プロジェクト」の中に、「糸井文庫翻刻」を立上げ、二日間のワークショップの成果として、4作品の翻刻を完了した。 翻刻作業は通常原本の写真やコピーを手許において進められることが多く、作品も翻刻入力画面もコンピュータの画面上で行われる本システムは、高齢者にとっては、なれない作業でもあり毎回システムの説明に時間がかかるのが難点であるが、一度覚えてしまうと、AIが的確に解読を支援してくれるため、翻刻効率だけでなく、	

	教育効果が極めて高く、地域の文化的なサークル活動の活性化にも有効であることが実証できた。 こうした、システムをより効率的に実施するための工夫としては、指導者側のシステムとして、翻刻作品予約システムや古典籍データベースと翻刻システムの利用マニュアルを、一般利用者にも理解されるように作成した。 なお、3月21日に開催予定であった、報告会（類似のシステムを運用する2機関の代表者の参加を含む）については、コロナウィルスの影響により残念ながら開催を断念せざるを得なかった。
4 その他	*文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業についてのご意見、ご要望等ありましたらこちらにご記入ください。 共同研究であるので、研究期間中の研究活動（たとえば舞鶴市での一般市民向けワークショップ）にご参加いただければ、より共同研究の内容をご理解いただけたのではないかと思います。

新聞掲載：

2019 年 12 月 23 日 京都新聞（舞鶴版）

くずし字 AI で解説 舞鶴で講座「酒呑童子」題材に

2020 年 1 月 24 日 舞鶴市民新聞

立命館大 AI 支援システムで難読の「くずし字」を読み解く